

## 関節穿刺の後は風呂に入らないほうがいいのか？(071207)

予防接種の時には、「お風呂に入ってもいいですよ。」と指導することが一般的になっている。もちろん、ゴシゴシこすったり、体調がよくない場合にはその限りではない。それに対して、関節穿刺後は当日の入浴を禁止することが多い(少なくとも私の勤務した施設では)。入浴を禁止することに対して何か根拠はあるのだろうか？

UpToDate や AAFP のホームページで joint injection に関する部分を調べてみたが、入浴やシャワーに関しての記載は発見できなかった。参考文献2では海外での関節注射の実情が紹介されているが、シャワーは可のようだ。日本ほど厳しい制限はなさそうである。いったいどうしたらいいのか迷ってしまうが、実際、専門医の間でも関節注射後の入浴に関する指導の意見は分かれている。

参考文献 1 にはその是非について論理的に説明されている。その内容は、「入浴によって感染が引き起こされることは理論上、起こりえない」というものである。まとめると、

- 関節液などの液体が通過できるようなトンネル構造は体内では存続できない。
- 仮に細菌がやっと通れるくらいのトンネルが開いていたところで、それを通ってお風呂の水が関節内に入るのは物理的に不可能。
- 仮にトンネルがあっても細菌が自力で到達するのは時間的に無理(到達する前に傷が治るということ?)

ということである。ではなぜ化膿性関節炎が起こるのか？それは「関節穿刺をする際の手技的ミス」と断言している。消毒の仕方などにも考察されており、一見する価値があるページである。

参考文献3によると、入浴禁止指示の根拠について明確なエビデンスはないとしたうえで、清潔な現代医学の現場においては正しい滅菌操作と患者の皮膚を可及的滅菌状態に消毒したうえで穿刺を行えば感染の確率は皆無に等しくなるはずとしている。ただし、関節液が多量に貯留しているケース、太めの針(18G 針)を使用するケースでは当日の入浴禁止の指示を出すべきとしている。それでも医原性と思われる化膿性関節炎症例のなかには、穿刺後に入浴していた症例も実際にはあり、感染の原因でないとはいいきれず、医療訴訟などの現状を考えるとその日の入浴は避けた方が無難と結論している。

個人的には、通常関節穿刺であれば、恐らく入浴は大丈夫と思う。ただ、大丈夫というからに

はっきりとした消毒、穿刺針の選択、患者の状況の判断が出来るということが最低限必要である。感染を起こさないことが最も重要なので、入浴していいかどうかだけにとらわれてはいけない。どんなに注意しても一定の確率で起きてしまい、一旦おきてしまえば患者はもちろん大変だし、治療するのは自分ではなく整形外科の専門医となるはずである。専門医とのコンセンサスを得られない状況では入浴を控えるのも仕方がない気もする…。専門医でも意見が分かれている現在、入浴が直接、化膿性関節炎と関連していないとしても、入浴 OK としてしまった患者に化膿性関節炎が発症してしまうと、患者の信頼や他施設との連携と言った面ではデメリットのインパクトが非常に大きい。一方、一日くらい入浴しなくても、化膿性関節炎ほど苦痛を伴うものではない。入浴に関するメリットのインパクトは(少なくとも私は)それほど大きくないと思われ、少なくとも私自身は入浴 OK の域値は高いものである(決断分析に関する考察は機会を別にしたい。)

「入浴しても大丈夫ですが、念のため今日は入浴を控えてください」  
変な説明だよなあ…でもこうになってしまう。ああ、弱気な私。

「どうしても入浴したいなら、絆創膏の上に透明なフィルムを貼りますよ」  
まあ、これくらいのサービス(フィルムのドレッシング材)はしてもいいだろう。絆創膏を覆うくらいならコストも 10 円から 20 円程度のもんだろう(私の施設では、安価なのでオプサイトを使用している)。

#### 参考文献

1. 関節穿刺後の入浴の是非 新しい創傷治療ホームページ  
<http://www.wound-treatment.jp/wound053.htm>
2. 2007 年 10 月 07 日 お風呂にはいったせいで感染したおばあちゃんの膝? MELIT ホームページ [http://melit.jp/voices/ninotchka/2007/10/07/post\\_62.html](http://melit.jp/voices/ninotchka/2007/10/07/post_62.html)
3. 星亨.関節腔穿刺をした後は入浴してはいけないのか? .治療, 88 : 831-832, 2006.